

ヒアリに関して

2017年06月22日
大日本除虫菊株式会社

6月13日の環境省発表[ヒアリ(*Solenopsis invicta*)の国内初確認について]を受け、ヒアリの生態と対策について概要をお知らせいたします。

1. ヒアリの生態 (国立環境研究所 侵入生物データベースより)

- 原産 南米 (ブラジルとアルゼンチン国境付近の亜熱帯域)
- 形態 2.5mm～6mm、体色は赤褐色で腹部が暗色。
- 生息環境 草地など比較的開けた環境。亜熱帯～暖温帯を好む。
- 生態的特性 < 巣 (コロニー) > 1つの巣に数匹の女王アリを持ち、ほぼ通年繁殖する。マウンド状のアリ塚を作り、3年で高さ約30cm、直径約60cmに達する。
- < 食性 > 雑食性。外来種として侵入したアメリカでは、農作物の根を食害したり、農作物の汁を吸うアブラムシと共生関係を作ることで農作物の被害を増大させたりする報告があり、毎年10億ドル以上の出費を強いられている。
この点はアルゼンチンアリと同様である。
- < 攻撃性 > ヒアリは巣の防衛本能が強く、巣に近づく動物に攻撃を仕掛ける。この攻撃性は、在来アリの駆逐だけでなく、幼い家畜が刺されて死ぬなどの農業的被害も報告されている。ヒアリはアゴを使って敵にしがみつきの、腹部の先にある毒針を刺して攻撃する。毒針はミツバチのように1回で抜けることは無く、7～8回相手を刺すことが可能。ヒアリの毒成分ソレノプシンは、ハチ毒と同じアルカロイド系で、刺されると強いアレルギー反応 (アナフィラキシー) を起こし、命を落とす危険性がある。また、電気設備に侵入し、回路をショートさせるなどの被害も報告されている。

2. ヒアリが侵入した地域

アメリカ、オーストラリア、ニュージーランド、マレーシア、台湾、中国南部など環太平洋諸国に急速に分布を拡大。日本への定着は未確認 (6/13 環境省発表：兵庫県にて国内初確認)。

3. 防除に使用されている有効成分

ピレスロイド系：ピレトリン、レスメトリン、フェノトリン、シフルトリンなど
ベイト剤：ヒドラメチルノン、フィプロニルなど

※テキサス A&M 大学 (テキサス州の農工大) Bastiaan M. Drees らによる報告
「ヒアリに対する統合的な害虫管理のコンセプト」より抜粋。

4. ヒアリ対策

国内に「ヒアリ」を対象害虫とした殺虫剤はありませんが、上記の有効成分を含む、通常のアリ用殺虫剤であれば「ヒアリ」に対しても十分な効果があると考えられます。

弊社商品では、アリキンチョール (フェノトリン)、イヤな虫キンチョール (シフルトリン)、アリ用コンバット (フィプロニル)、ムカデアリコナーズパウダー (シフルトリン) となります。

また、当社独自の有効成分である「シラフルオフエン」を使用した、アリがいなくなるシャワー液も、「ヒアリ」に対して十分な効果があると考えられます。

ただし、ヒアリは非常に攻撃性が高く、人にとって危険性の高い生物です。積極的に個人で駆除せず、管轄区域の環境省地方環境事務所にご連絡ください。